

## 第1回 地方議会・議員のあり方に関する研究会（議事概要）

### 【議事概要】

- 座長挨拶の後、構成員からそれぞれ自己紹介を行い、開催要綱を決定した。
- 構成員による自由討議を行った。

### 【主な議論】

- 地方議会議員のなり手不足は地方自治の根幹にかかわる大きな問題。議会・選挙の仕組みづくりと同時に、住民が関心を持ち、関わりを深めることが重要。【只野座長】
- 地方対都市、若者対高齢者のような社会の分断を回避する仕組みとして議会は重要。そのためには多様な人材が参画できるようにする必要がある。【大山座長代理】
- 政治参加については選挙権の行使と被選挙権の行使の両方の側面から考える必要がある。政治と国民の距離が遠いことが問題ではないか。【岩崎構成員】
- 市議会議長会では、多様な人材の市議会への参画促進に関する決議を議決した。議員報酬の引き上げ、年金、雇用保険なども関係する。老後の生活や家族を心配することなく選挙に立候補できる環境の整備をすることが大事ではないか。【川上構成員（全国市議会議長会）】
- 無投票当選が都市部の都道府県議会議員選挙でも起こっていることを踏まえると、人材不足や報酬の問題以外にも、なり手不足の要因が存在しているのではないか。【大屋構成員】
- 国政選挙が政党中心になる一方で、地方選挙は従来のものであるために、地方選挙において政党が候補者を擁立することが困難になっているのではないか。【河村構成員】
- なり手不足に対する三議長会による研究についても議論したい。制度について何かしら結論を出すのか、方向性を出すのかについてはこれから議論いただき、制度化が見えれば地方制度調査会につなげていきたい。【事務局（北崎自治行政局長）】
- なり手不足に対して町村議会議長会としても危機感を持ってきた。生計を立てることのできない議員報酬が要因の一つ。多様な人材が参画できる環境の整備が最重要課題であり、兼業禁止の緩和、手当制度の拡充等の議論を深めたい。【櫻井

構成員(全国町村議会議長会)】

- 今後の研究会は、まずは現行制度を前提として、多様な人材を確保するための環境整備やこれまで三議長会が累次の地方制度調査会などの場において要望してきた事項について、その実現が図られるよう、前向きな議論をお願いしたい。

【櫻井構成員(全国町村議会議長会)】

- 議員は地域の代表、住民の代表として正統性を有するものだが、首長が自ら住民と直接つながって住民の声を吸い上げるようになった最近では、議会は何を指すのかが問われている。【大屋構成員】
- 兼業・兼職の考え方が今も通用する自治体も存在するのではないか。自治体間の規模の隔たりを考慮すると、一つの制度、一つの解決策では対応できないのではないか。【大屋構成員】
- 町村は全て同一ではなく、人口規模も様々であり、様々な議会がある。これで全てのなり手不足が解決するという方法はなく、一つ一つ議論を進めていく必要があるのではないか。【櫻井構成員(全国町村議会議長会)】
- 都道府県議会議員選挙で無投票当選の割合が高いが、選挙区の定数別にデータを分析する必要があるのではないか。【岩崎構成員】
- 1人区、2人区は男性議員が多く、性差の問題があるのではないか。議員のなり手は男性ばかりではないことから、女性議員が急増している議会について、その要因を分析してはどうか。【河村構成員】
- なり手不足の背景には、地方議員になることの魅力のなさがあるのではないか。いわゆる議員の特権的な年金ではなく、厚生年金に加入しようという動きはいいことではないか。【安達構成員(全国市議会議長会指定都市協議会)】
- 教育が政治のことを教えないことは大きな問題。子供たちにとって政治や選挙が遠い存在になっている。教育の場で教えていく必要があるのではないか。【安達構成員(全国市議会議長会指定都市協議会)】
- なり手不足については小規模自治体の議会と指定都市等の議会とで背景が異なっており、小規模自治体を中心に議論した方がいいのではないか。【吉田構成員(全国都道府県議会議長会)】
- 民間事業者であれば社会保険と厚生年金に事業主が加入しないといけない。日々の政務を含めた議会活動を行う議員の厚生年金についても議論をしていただきたい。【吉田構成員(全国都道府県議会議長会)】
- 震災によって住民が避難すると定数を減らせという声が出たが、復興には一定程度の数で議論を進めることが大事。議員定数についても、この研究会で議論して

いただきたい。【吉田構成員(全国都道府県議会議長会)】

- 地域に密着した議員がいなくなっている。市町村合併を経て、32人の議員で東京23区と同じ面積の地域を見ている。定数の検討には色々な事情を勘案する必要がある。【川上構成員(全国市議会議長会)】
- 議会には、首長には絶対に持てない正統性があるはず。それは多様な意見の反映ということではないか。色々な人が入っていないと議会が多様であるといえないので、多様な人材を確保するための環境整備を進めないといけない。【大山座長代理】
- 学校教育で議会制民主主義の大切さを教えていないことは問題だが、議会の側で出前事業を行うなどの取組が不足しているのではないか。他国では、社会科の先生を議会に集めて、説明したり研修したりしているところもある。【大山座長代理】
- 身の丈に応じた取組として、議会主導で1年1条例を制定している例がある。【河村構成員】
- 町内会長のなり手不足と町村議会のなり手不足はオーバーラップしている。議会説明会に世帯主の方々が参加すればいいとするのではなく、意図的に相手を変えて、若い世代や女性が参加するように工夫することが必要ではないか。【河村構成員】
- 議会説明会を開催している自治体では、積極的に参加してもらえるように議会が高校に訪問し、お茶会という形で開催している事例がある。学生への教育には、議員自ら出向いて直接対話することから始まるのが一番いいのではないか。【櫻井構成員(全国町村議会議長会)】